

海堡

季刊

2007年夏号 / 第17号

編集・発行 / 東京湾海堡ファンクラブ
会長 小坂一夫

発行日 / 2007年7月12日

kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース

No.17

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 第6回総会報告
- 東京湾海堡ファンクラブ見学会報告
浦賀ドック&西浦賀 太田 敏幸
- 「海堡」 高橋 由美
- 斉藤岩吉さんに聞く 小坂 一夫
- 第一海堡人夫住所録他 小坂 一夫
- 会則 / 入会案内

第6回総会報告

第6回総会が2007年6月23日、富津公民館で開催された。会員121名のうち、総会出席者は67名（委任状提出者含む）で、定足数の過半数を超え、総会は成立し、下記議案が決議された。

定期総会の後に開かれた「シンポジウム」では、同ファンクラブの監事で、NPOリサイクルソリューション技術顧問の蓮見隆氏が「東京湾海堡の建設技術とその特徴」と題して、1時間にわたりパワーポイントと図面を用いて講演した。講演では、東京湾海堡が建設された背景と海堡建設がいかに困難なことであり、それを当時の人々がどのように克服していったかを建設技術の視点から解説された。

そのうえで、海堡建設での技術的な経験は、日本にとって、現代の貿易国家を支える港湾建設や埋立工事などの海洋建設事業へ取り組む自信に繋がっていったと語った。

当日は約40名の参加があり、会場からは、以前、「東京湾海堡建設と和算」についての講演をされたお茶ノ水女子大学の真島秀行教授より波力や石材の重量は当時計算されたのか、

また、東京湾第一海堡で生まれた石見潔氏から要塞法の適用範囲につき質問があり、大変盛況だった。

講演に引き続き、関東地方整備局で引き上げた東京湾第三海堡の遺構の保存についての今後の活用につき、関東学院大学の昌子住江教授から現状が報告され、一連の総会行事はすべて終了した。

記

第1号議案 2006年度事業報告

年	月	日	会報	行事	報告事項
2006	4	3	会報第13号の発行(済)		
	4	22		◇現地見学会9(横浜) 「神奈川台場」	
		25			海上保安庁横浜海上保安部航行援助センターへ第二海堡上陸許可・護岸補修を要請した。
	5	22			参議院議員・泉信也氏を訪問し、第一海堡と第二海堡の現状を説明した。
	6	6			財務省関東財務局千葉財務事務所へ第一海堡上陸許可・護岸補修を要請した。
		17		●通常総会 ◎シンポジウム6【東京】 西田明則氏後100年記念シンポジウム 真島秀行氏:「東京湾海堡建設と和算」	2005年度会計報告 2006年度会費徴収
	7	11	会報第14号の発行		全国近代化遺産活用連絡協議会に加入(協力会員)。
	8	16			千葉県知事へ千葉県が第一海堡と第二海堡の管理を行っていただけけるよう、要請書を提出した。
		27		◇現地見学会10(横浜) 横浜軍港めぐりとヴェルニー公園散策	
	9		会報第15号の発行		
	10	28		高橋悦子幹事:「海堡—第三海堡建設史を中心に—」講演	富津市市民文化教養講座
	11	14			国土交通省関東地方整備局港湾空港部へファンクラブの活動報告と第一海堡第二海堡の保護へ向けての働きかけを行った。
		19		高橋悦子幹事:「海堡—第三海堡建設史を中心に—」講演	富津港の会
	12	2		◇現地見学会11(横浜) 浦賀ドック&西浦賀見学会	
2007	1	13		◎シンポジウム7(富津) 古田隆久氏:「世界遺産の現状と課題」	
	2				
	3	1			東京湾第三海堡遺構保存連絡会議の発足に協力した。

第2号議案 2006年度決算報告

(単位:円)

項目	06年度予算額	06年度決算額	差違	備考
収入の部				
会費	250,000	226,000	-24,000	88名(内法人5社)、未納47名
参加費	40,000	149,500	109,500	見学会参加費
前期繰越金	234,538	234,538	0	
寄付金		100,000	100,000	西田好孝氏より寄付
計	524,538	710,038	185,500	
支出の部				
印刷費	150,000	135,200	-14,800	会報3回発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費	90,000	60,730	-29,270	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	100,000	203,220	103,220	見学会・シンポジウム講師謝金、見学会行程内の交通費
見学会・シンポジウム開催費	30,000	59,020	29,020	会場費、昼食代など
文房具・備品	20,000	15,141	-4,859	会長之印、発送用封筒
保険料	10,000	4,662	-5,338	見学会開催時の保険
役員会開催費	30,000	0	-30,000	
全国近代化遺産活用連絡協議会費	20,000	3,000	-17,000	協力会員
その他	30,000	11,995	-18,005	吉本県議事務所開きお祝い金ほか
計	480,000	492,968	12,968	
次期繰越金	44,538	217,070	172,532	収入-支出

以上のとおり、ご報告申し上げます。 会計 高橋悦子

上記の決算書を監査の結果、いずれも正確妥当であることを認めます。

平成 19 年 5 月 25 日

監事 蓮見 隆

【予算との差異】 予算と実績とが違ったことは下記によるものです。

<収入の部>

会費の未納 : 会員 135 名のうち、未納者が 47 名いる。
(未納者は今後、退会希望とみなし、会報を送付しない。)

参加費の収入: 見学会で乗船代や昼食代が含まれたため、通常、一人 500 円~1,000 円のところ、1,800 円~2,000 円だった。

寄付金 : 西田顧問から西田明則没後 100 年の記念イベントに対し、寄付金をいただいた。

<支出の部>

講師謝金・交通費: 講師の先生に遠方(広島)からお越しいただいたため、交通費が予算より多くかかった。

第3号議案 2007年度事業計画

年	月	日	会報	行事	備考
2007	4				
	5				
	6	1	会報第16号の発行(済)		
		23		●通常総会 ◎シンポジウム8〔富津〕 蓮見隆氏:「東京湾海堡建設と技術」	2006年度会計報告
			会報第17号の発行		2007年度会費徴収
	7				
	8			◇現地見学会12〔世界遺産への取り組み事例〕 鎌倉	
	9		会報第18号の発行		
	10				
	11			◇現地見学会13〔富津〕 姫山	
	12			◎シンポジウム9〔東京〕 「東京湾海堡と世界遺産登録 II」	
2008	1		会報第19号の発行		
	2				
	3				

第4号議案 2007年度予算案

(単位:円)

項目	07年度予算額	06年度決算額	差違	備考
収入の部				
会費	230,000	226,000	4,000	95名(内法人5社)として計算
参加費	100,000	149,500	-49,500	見学会参加費
前期繰越金	217,070	234,538	-17,468	
寄付金	-	100,000	-100,000	
計	547,070	710,038	-162,968	
支出の部				
印刷費	150,000	135,200	14,800	会報4回発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費	80,000	60,730	19,270	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	150,000	203,220	-53,220	見学会・シンポジウム講師謝金、見学会行程内の交通費
見学会・シンポジウム開催費	30,000	59,020	-29,020	
文房具・備品	20,000	15,141	4,859	発送用封筒など
保険料	5,000	4,662	338	
役員会開催費	15,000	0	15,000	
全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,000	3,000	0	協力会員
その他	20,000	11,995	8,005	
計	473,000	492,968	-19,968	
次期繰越金	74,070	217,070	-143,000	収入-支出

【昨年度との差異】

<収入の部>

参加費の収入: 見学会の参加費を一人 500 円~1,000 円、講演会資料代を 500 円と想定した。

<支出の部>

見学会・シンポジウム開催費: 昨年度は、見学会時に昼食を用意したが、予算では、昼食代を含めなかった。

第5号議案 2007年度役員選任の件

●2006年度役員の変更

- 会長 小坂一夫 (富津市文化財審議委員)
- 副会長 朝倉光夫 (東亜建設工業(株))
- 幹事 仲野正美 (前 横須賀市立北下浦小学校教頭)
- 幹事 安室真弓 (東京湾学会理事)
- 幹事 松本庄次 (前 富津公民館長)
- 幹事 小沢洋 (富津市生涯学習課)
- 幹事 西田信吉 ((株) 港建技術サービス)
- 幹事 長崎哲士 (彫刻家)
- 幹事 勝巖 (新横商事(株))
- 幹事 高橋克 (江戸川大学准教授)
- 幹事 渡辺京子 (富津湾の会幹事)
- 幹事 田中富蔵 (新井区長)
- 幹事(事務局長) 島崎武雄 ((株) 地域開発研究所)
- 幹事(会計) 高橋悦子 ((株) 地域開発研究所)
- 顧問 西田好孝 (東京湾海堡建設従事者子孫代表)
- 監事 蓮見隆 (NPO リサイクルソリューション技術顧問兼事務局長代行)

浦賀ドック & 西浦賀見学会報告

東京湾海堡ファンクラブ会員 太田 敏幸

小春日和の平成18年(2006)12月2日(土)午前10時55分、神奈川県横須賀市にある「住友重機械工業株式会社・浦賀工場正門」に集合した。午前11時見学開始に向けて遅刻者もなく順調な滑り出しである。

① 浦賀ドック

浦賀湾を囲むこの施設は、住友重機械工業株式会社追浜造船所浦賀工場である。創業以来、浦賀船渠株式会社、浦賀重工業株式会社、更に現在の社名と変わりましたが、広く「浦賀ドック」の愛称で呼ばれてきました。この造船所は、明治29年(1896)榎本武揚などの提唱により、設立準備を進め、翌30年(1897)6月21日の会社設立登記をもって発足したという。

見学日当日は、山本詔一氏(横須賀開国史研究会会長)を講師としてお迎えしてのご説明である。ドックは、造船・修理・メンテナンスなどに使用されるという。既に使用されておらず往年の活躍ぶりが偲ばれた。説明によると、ドックへの入水だけで4時間を要する。入船した船を敷かされている盤木に乗せ、潜水夫が確認後、水抜きして作業を行うという。作業の大変さを感じての見学であった。



② 郷土資料館(浦賀文化センター)

丘の上に位置していた。展示品として、浦賀奉行所の与力「中島三郎助の業績」と浦賀の繁栄を物語る資料や模型などがあつた。郷土資料館は高台にあるが、これは浦賀ドックを造ったときにでた土を盛り上げたものだという。



③ 西叶神社

西浦賀の鎮守で、創建は養和元年(1181)文覚上人が源氏の再興を願ひ、京都の石清水八幡宮を勧請して創建したと伝えられている。源氏の再興が叶ったことから「叶神社」となったという。社殿外部四方の彫刻が素晴らしかった。



④ 浦賀の渡し

歴史は古く、享保7年(1722)の記録に残されている。設置された頃から東西の浦賀や周辺の村などが協力して渡し船を維持してきた。現在の料金は150円である。



⑤ 陸軍棧橋(浦賀棧橋)

終戦直後、浦賀港は「海外にあつた軍人の、軍属及び一般人」の引揚げ港に指定された。以降、昭和22年(1947)3月までの間、この棧橋に中部太平洋、南方諸

島などの各地から56万人余が引揚げてきた。



⑥ 浦賀番所跡

番所は浦賀奉行所の出先機関として、享保6年(1721)から明治5年まで、江戸へ出入りするすべての船の乗組員と積み荷の検査をする「船改め」を行い、江戸の経済を動かすほどと言われていた。



⑦ 浦賀奉行所跡

享保5年(1720)に奉行所が下田から浦賀へ移された。その業務は、船改めをはじめとして、海難救助や地方役所としての仕事などを行っていた。現在では、奉行所を取り囲む堀の石垣と表門の前にかかっていた石垣の伊豆石があるだけである。



⑧ 為朝神社

寛正12年(1800)浜町の漁民が海に漂流していたとき木像を拾う。地藏堂に安置して祈願するとその効多

く、鎮西八郎為朝の像といわれる。航海の守護神として信仰を集めている。



⑨ 川間ドック

東京石川島造船所が、大型船の建造修理のため、当時、取締役会長であった渋沢栄一の案により、明治28年(1895)10月浦賀分工場として建設に着手し、明治31年営業を開始したという。その後、第3海堡の鉄筋コンクリートケーソンを製作したが、現在はマリーナとなっている。



⑩ 燈明堂跡

慶安元年(1648)幕府の命でつくられた日本式の灯台である。明治5年(1872)までその役割を果たした。夜になると1夜に灯芯100筋、菜種油1升を用いて番をしたと伝えられる。浦賀湊に出入りする船にとって航海安全の役目を果たしていた。



⑪ 千代ヶ崎台場跡

文政4年(1821)会津藩が1貫目大筒を備えたのが、千代ヶ崎台場の始まりである。

夕方からの上げ潮により、海岸を進むことができず台場まで行くことができなかった。遠望で想像を高めた。



まとめ

西浦賀を見学し、近代日本の足跡を感じた。特に、燈明堂跡から見た浦賀湊の入江は、造船所立地には最適な場所であることを確認した。

今回の見学会に参加し、学生時代の書物による学習から一歩前進でき満足している。

海 堡

東京湾海堡ファンクラブ会員 高橋 由美

海からの外敵から護るため大砲を置く人工島を海堡と言う

富津には日本のどこにもない海堡が岬の先に二つある

それも崩れたままに

波に風に台風

洗われて 洗われて

削られて 削られて

どんどん壊れ続けて

そこにある

老いばれ海堡を見捨てる気かい

崩れて海の藻屑となるのを

待っている気かい

富津の先祖が働いて 働いて

命がけで潜って積んだ石も

何艘も何艘も運んで

地硬めた土も砂もレンガも

助けてはくれないのか

明治まで岬に史跡はなかった

岬の後方には甚大な勢力のあかしの

点在する古墳 貝塚 住居跡があるのに

若い岬には史跡などなかった

わずか六千年前に

海が後退したとき現れた

岩のない岬だもの

ようやく岬に熱いまなざしが

注がれる日が来た

巨船 大砲の時代に

それは来た

外国から江戸を東京を

護るとき

この遠浅の東京湾のくびれ部は

天然の要塞として

光をあびた

明治政府は陸に元洲砲台

海に 第一 第二 第三海堡を

つくった

そして岬は人を通さぬ

国防重要 要塞地帯となった

戦争に負けて

平和が来て

米軍に破壊された海堡は残った

富津の子は岬を描くとき

必ず海堡をそこに入れる

一海堡 二海堡と

口ずさみながら

遠く高台から岬を眺めるとき

必ず海堡まで観る

あさりを掘るときも

海で泳ぐときも

海苔舟を待つときも

夕富士を観るときも

タンカーの航路を追うときも

いつも海堡といっしょ

じわり じわりと

海堡は崩れて

ある日 視界から消えてなくなる

祖父が祖母が 父が母が

そして今自分が見ている海堡が

なくなるときが来る

くず
崩れたままでもいいから

ずっと海堡といたい

ずっと ずっと ずっと

は
果てしない未来のかなたを思うとき

人は死に 生まれ

ビルは新鋭^{しんえい}を極^{きわ}めるが

ふる
古びたレンガの海堡が

ぽつんと歴史をものがたり

そこにゆったり^と溶け合って

美しい景が生まれていることを

想像したい

斉藤岩吉さんに聞く

東京湾海堡ファンクラブ会長 小坂 一夫

石見潔さん（愛知県稲沢市）に、第一海堡と富津港を結ぶ渡船の経営者だった斉藤岩吉さん（大正 10 年 3 月 10 日生）を紹介され、第一海堡について話を聞いた。

*加藤定昭（屋号定四郎）さんから経営を引き継ぐ。15 年くらいは、やった。1 級の海事免許を持っている。「富津観光船株式会社」漁業権放棄（昭和 45 年）による転業対策のために始めた。現在では、木更津の「中央産業」に航路の許可をゆずった。

*釣り客が主だった。600 円の赤虫えさ付きで往復 2,000 円の料金だった。

* 船名「観光丸」定員 40 名 35.6 トン

*強いなれ（北風）が吹くと島に着けられなくなるため、そういう時は、断るか食料持参を勧めた。

*女性客のためのトイレを町に造ってもらった。木製の栈橋を造ったがすぐに壊れてしまった。栈橋については、佐久間清富津町長名でその「使用許可」の書類が残っている。

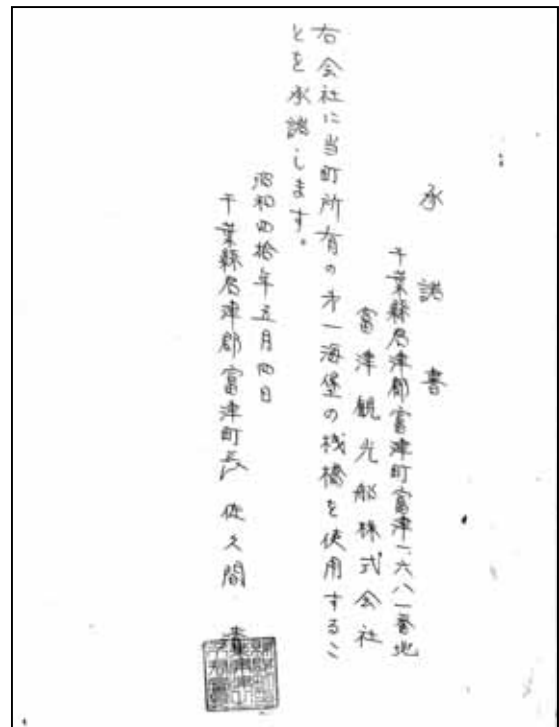
（下図）

*北側に港があったが、埋まってしまった。産業廃棄物の不法投棄かもしれない。

*井戸があった。雨水がたまったものと思われる。夜ごぞ地引（小さい地引網のこと）をやりに、のどが乾くと水をもらいに行った。昼間やると怒られた。

*富津港と第一海堡だけの航路だと距離が短すぎるので経路して大貫港までの航路で許可をとった。大貫港入港の許可も漁組の許可をとった。

*風が出そうになると時間前でも迎えに行った。



【木更津市 中央産業(株)所蔵】

第一海堡の栈橋使用承諾書（昭和 40 年 5 月 4 日）

*この書類から、昭和 40 年（1965）当時、富津町（現在の富津市）が管理者として、第一海堡の栈橋の使用を承諾していることが分かる。

（以上）

第一海堡人夫住所録他

東京湾海堡ファンクラブ会長 小坂 一夫

平成 17 年 7 月 11 日、富津市新井の田中富蔵さん宅で、第一海堡建設に関係した「人夫住所録」（大正 14 年（1925）7 月 15 日）、「職工人夫心得」（大正 14 年 6 月 26 日）、「運搬契約書」の 3 通が見つかった。

「人夫住所録」の表紙には、「大野組壱海堡出張所」の印鑑が押されておりその脇に、「大野組取締り田中不二雄」と記されている。

大正 9 年（1920）の富津の街中の北側を焼き尽くした富津の大火の原因は、大野組の鉄火場での喧嘩が原因で、それがもと大野組が富津に居られなくなったという言い伝えがあるが、大火の 5 年後も大野組は、富津にまだあったことがわかる。大野組の所在地は、浜町の今の横田家旅館の東側だった。

一海堡の完成は、明治 23 年（1890）12 月とされているが、完成後 35 年過ぎても、一海堡には、160 人を超える人が働いていたことになる。完成後何故こんなに多くの人が働いていたか。

横須賀市史編纂室の高村氏によると「兵器の入れ替えがよくあり、その都度ごとに、砲座の工事が必要となり、（司馬遼太郎著の「坂の上の雲」の中で東京湾の要塞に据えてあった 28 サンチ榴弾砲を 203 高地に運んだことが書かれている）工事関係者がいることは、うなずけることだ。」とのことである。

住所録を見ると、167 人中富津の人は、68 人の 41%で、あとは、下飯野 9 人、新井、西川各 7 人、川名、小久保、人見、小山野各 5 人、なんと富山県 8 人となっており隣の君津市、あとは、山形、兵庫、栃木、神奈川、新潟、秋田、宮城の各県からと多岐に亘っている。

大正 3 年（1914）横須賀の永島家文書「原籍記」は、これほど多岐に亘ってはいない。富津と隣町の小久保が殆どを占めていた。

「職工人夫心得」の巻末には、大正 14 年（1920）6 月 26 日「陸軍築城部横須賀支部工場」と記されており、11 項目にわたり働く時の心づもりが、箇条書きで書かれている。

- 1 真面目に働きなさい。始業の号令前には、持ち場にいることとされている。

始業時間は、4 月から 9 月までは、朝 6 時 30 分から夕方 5 時。10 月から 3 月までは、朝 7 時から夕方 4 時 30 分。

完成している海堡に泊まればいいが、富津から通うとなると 5 時には出ないと、間に合わないことになる。動力船は、昭和の初期からなので帆か櫓以外には、ないからである。富津の港からは、約 4 キロである。厳しい労働条件であった。

- 2 親方から、出場票をもらい掛官（現場監督か）にわたすこと。ない人は、仕事は、できない。
- 3 決められた場所以外では、タバコを吸ってはいけない。
- 4 官物を丁寧に取り扱。故意に破損したり、紛失したりした時は、弁償すること。
- 5 作業終了の号令がある時は、使った道具を手入れし、掛官に返し、出場票を受取り、退場すること。仕事が終わったあとは、掛官の許可無く工場に入れない。
- 6 違反者は、仕事は禁止し、その名前を工場入り口に掲示する。以後の仕事には、つけない。
 - ①工場の様子を写し取ったり、工事状況、軍事機密に関することを他に漏らすこと。
 - ②道具を持ち出すこと。
 - ③掛官の命令を聞かないこと。
 - ④喧嘩、口論や他人の作業を妨害すること。
 - ⑤砲台工事に従事することを利用し一般に迷惑をかけること。
- 7 以下のことは、厳禁である。
 - ①作業中雑談とタバコを吸うこと。
 - ②許可無く火を焚くこと。
 - ③掛官が通るところ以外通行禁止。
 - ④材木を切ること。
 - ⑤官物を使うこと。
 - ⑥大小便をすること。（定められた場所以外）
 - ⑦退場禁止
 - ⑧現場内に他人をいれること。
 - ⑨掛官の部屋に無断で入ること。
- 8 敷地の様子を撮影、模写、録取し、又は挙動不審者を発見した時は、ただちに掛官に報告すること。
- 9 外国人に関係のある人が、砲台内に入出入りしていることを知った時はただちに密かに掛官に報告すること。
- 10 作業中ケガや急病人がいたら、すぐに掛官に届出指示を受けること。
- 11 職員には、相当の敬意を表し敬礼すること。（作業中は、この限りにあらず。）

(以上)

東京湾海堡ファンクラブ会則

第1条 (名称)

当会の名称は、「東京湾海堡（とうきょうわんかいほう）ファンクラブ」とする。

第2条 (目的)

当会は、東京湾海堡を核にして人の輪をつくり、東京湾海堡の歴史の検証と普及、遺跡の整備と愛護、ランドマークとしての理解を深め、東京湾の歴史と未来をつなぐことを目的とする。

第3条 (事業)

- 当会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 東京湾海堡に関する研究会、講演会、見学視察会の実施。
 - (2) 会報の発行（年4回）。
 - (3) 東京湾海堡に関する資料・情報の収集。
 - (4) その他、東京湾海堡への理解と愛護を深める活動。

第4条 (会員)

当会の目的、事業に賛同する個人または法人（グループを含む）を会員とする。

第5条 (入退会と会費)

当会に入会しようとするものは、入会申込書により会長に申込みの申す。会長は、正当な理由がない限り、その入会を認めなければならない。当会を退会しようとするものは、退会届けを会長に提出し、任意に退会することができる。

会員は、下記の年間会費を納入する。

年間会費は、個人会員2,000円、法人会員10,000円とする。

会費は、毎年4月に支払うものとし、会費を支払わないときは退会したものとみなす。

既納の会費は、いかなる理由があっても返還しない。

第6条 (総会)

総会は、当会の議決機関であり、年1回の通常総会および臨時総会とする。

- (1) 総会は、会員をもって構成する。
- (2) 総会は、会員の過半数を定足数とする。ただし、定足数については委任状をもって代えることができる。
- (3) 総会の議決は、出席した会員の過半数の賛同をもって行う。可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- (4) 会長は総会を召集し、総会の議長を勤める。
- (5) 総会は、前年度の事業報告および収支決算の承認、当年度の事業計画および収支予算の決定、役員を選任、会則の変更、解散、合併、その他総会または役員会が必要と認める事項について議決を行う。

第7条 (会員の権利)

会員は、次の権利を有する。

- (1) 総会に参加すること。
- (2) 研究会、講演会、見学視察会に参加すること。
- (3) 会報の無料配布を受けること。
- (4) 収集した資料・情報を閲覧すること。
- (5) その他、当会が行う東京湾海堡への理解を深める活動に参加すること。

第8条 (資格の喪失)

会員が次の各号に該当するときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。

第9条 (役員)

当会は、役員として、会長1名、副会長1名、幹事（事務局長）、幹事（会計）を含め、15名以内の幹事をおく。

役員は会員から総会において選任する。役員の任期は通常総会から次の通常総会までとするが、再任を妨げない。

第10条 (役員職務)

会長は、当会を代表し、その業務を総務する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。役員は役員会を組織し、当会の業務を行う。

第11条 (会計)

当会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第12条 (事務局)

当会の事務局事務所は、東京都台東区東上野2-7-6 東上野T.Iビル（株）地域開発研究所内におく。事務局には事務局員若干名をおく。事務局員は会長が選任する。

第13条 (付則)

当会則は、2003年6月21日から改定実施する。

役員

会長	小坂一夫（富津市文化財審議委員）
副会長	朝倉光夫（東亜建設工業（株））
幹事	仲野正美（前 横須賀市立北下浦小学校教頭）
幹事	安室真弓（東京湾学会理事）
幹事	松本庄次（前 富津公民館長）
幹事	小沢洋（富津市生涯学習課）
幹事	西田信吉（（株）港建技術サービス）
幹事	長崎哲士（彫刻家）
幹事	勝巖（新横商事（株））
幹事	高橋克（江戸川大学准教授）
幹事	渡辺京子（富津藩の会幹事）
幹事	田中富蔵（新井区長）
幹事（事務局長）	島崎武雄（（株）地域開発研究所）
幹事（会計）	高橋悦子（（株）地域開発研究所）
顧問	西田好孝（東京湾海堡建設従事者子孫代表）
監事	蓮見隆（NPO リサイクルソリューション技術顧問兼事務局長代行）

入会案内

東京湾海堡ファンクラブの活動主旨にご賛同いただける個人・法人（グループを含む）の入会を募集しております。

入会希望者は、下記入事務局まで申込み用紙をご請求ください。申込み用紙は、ホームページ（<http://www.babu.jp/~kaihoufc/>）からでも入手できます。

会費は下記口座にご送金ください。

銀行振込口座

●東京都民銀行 御徒町(カチマチ)支店 普通預金 4011598

「東京湾海堡ファンクラブ会計高橋悦子（トウキョウワンカイハウファンクラブカイケイタカハシエツコ）」

●郵便局 00140-9-665909「東京湾海堡ファンクラブ」

会費(年間) 個人会員：2,000円 法人会員：10,000円

事務局 〒110-0015 台東区東上野2-7-6 東上野T.Iビル

(株)地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局

事務局長：島崎武雄 会計：高橋悦子

電話 03-3831-2917 FAX 03-3831-6259

HomePage：http://www.babu.jp/~kaihoufc/

E-mail：kaihoufc@babu.jp

会費入金のお願い

2007年度の会費の入金をお願いいたします。会費入金用の振込用紙（郵便局用）を同封いたしました。[すでにご入金いただいた方には振込用紙は入れておりません。]

皆さまからのお便りをお待ちしています。

「海堡」に投稿ください。葉書、手紙、E-mail、写真、ご意見、近況、作品、随筆など、事務局までお寄せ願います。

第一海堡、第二海堡の活用方法についてのご意見もお待ちしています。

「海堡」 *kaihou* No.17

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第17号

東京湾海堡ファンクラブ 2007年7月12日発行